

千葉で見る 113系の現状

2年 マスカット



1、はじめに

さて、二年に進級し二度目の部誌の執筆になります。昨年は私の大好きな「湘南色」(緑色と橙色の塗分です)が今でも残る高崎地区・115系電車について触れさせていただきました。そんな折、昨年千葉地区の113系電車にリバイバル塗装が登場し、113系の「湘南色」が復活したのです。「スカ色」と呼ばれる群青色とクリーム色の塗分が地元古来色である千葉地区に湘南色が出現したことは、鉄道ファンにとっては衝撃的でした。そして現在、湘南色に限らず千葉地区の113系自体が新型209系(1月までは京浜東北線で使われていました)による置き換えが進み、廃車が進んでいます。そこで今年は、残り少なくなった日々を、千葉でのローカル運用に徹する113系にスポットを当てようと思います。

2、113系とは？

113系は、東海道線東京口のラッシュ緩和を目的に1963年に国鉄が導入した近郊電車です。それまでの車両と比べ主制御機や主抵抗器の容量が格段に増えているなど、使い勝手の良さや高性能さがゆえ、本州の平坦地区で普通や快速列車として活躍しました。最盛期には在籍車両数が2900両を越えるなど、近郊型電車の基礎として長年幹線に君臨してきました。しかし、国鉄民営化後は新型車両の登場に追われ、一気に姿を消していきました。現在も細々と活躍していますが、これらもあと数年かと思われる。

・現在の主な走行路線 千葉地区(路線は後述)、湖西線、紀勢線、阪和線、山陽線など

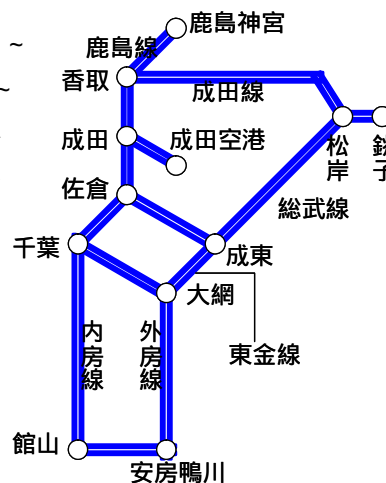
3、千葉地区での現状

千葉地区で運用する車両を担当する幕張車両センターには、現在113系が計128両配置されています。内訳は6両編成が6本(36両)、4両編成が23編成(92両)。定期列車運用範囲を、下の図に表しました。

現在は千葉県内の総武線、成田線(千葉～銚子、成田～成田空港)、内房線、外房線、東金線と鹿島線(香取～鹿島神宮)で運用されています。鹿島線、東金線以外では2編成の併結運用があり、最長で10両の編成を組みます。



113系の併結風景(千葉)



4、編成

現在活躍している113系は、編成番号の頭に「S」が付く「リニューアル車」、国府津車両区から転属してきた「もと国府津車」、タイフォンが下部に付く「1000番台」の大きく3種類で構成されています(1000番台でも他に該当する場合は他を優先して分類しています)。それでは、これらを編成面から一つずつ見ていきたいと思います。

4 - 1、リニューアル車

編成番号の頭に「S」が付く編成は、1998年度以降にリニューアル工を受けた編成です。リニューアル工事では主に見えない部分が改造されましたが、化粧板の変更や腰掛への枕設置、車椅子スペースなどもリニューアルされたため乗車すれば一目で判別できます。編成番号 S61～S71、S221～S225 が該当します（廃車済編成含）。

残存注目編成

- ・ S62 編成...2009年9月より、湘南色に塗り替えられた編成です。

廃車済特異編成

- ・ S65 編成...リニューアル車で唯一の2000番台、クハ111-2146が組み込まれている編成でした。同車は銚子側に連結されていましたが、10/8/26に廃車済です。



S61 (五井)



S62 (巖根)



S65 (稲毛海岸)



S68 (本千葉)

4 - 2、もと国府津車

かつては国府津車両センターに在籍し、東海道線東京～静岡間で活躍していた編成です。2006年に東海道線から113系が引退する際に、当時国府津車両センターに所属していた113系の一部が幕張車両センターに転属し、スカ色に塗り替えられ千葉地区で復活しました。これらが「もと国府津車」です。編成番号51、53、101～119が該当します（廃車済編成含）。

注目編成

- ・ 113 編成・115 編成...幕張区の中で全検からの日数経過が多く、貫通路などに湘南色を垣間見ることができる編成です...が故に廃車も近いと思われます。
- ・ 117 編成...2009年6月より、湘南色に塗り替えられた編成です。

廃車済特異編成

- ・ 105 編成・110 編成...もと国府津車の中で車両更新が行われた車両を含む編成でした。105編成ではクハ111-210/523、110編成ではクハ111-217/515が該当しました。



107 (本千葉)



113 (下総神崎)



114 (成田)



117 (蘇我)

4 - 3、1000番台

編成番号201～218が該当します。これらの編成は先頭車に0番台2両、モハユニットに1500番台を含む1000番台で構成されています。他番台ではヘッドライトの隣にあるタイフオンが、1000番台は下部に移動されており、区別は容易にすることができます。

残存注目編成

- ・ 207 編成...オリジナル形態を保つ1500番台が編成に含まれています。また、クハ111-1027は1972年東急車輛製造の最若番です。

廃車済特異編成

- ・214 編成...銚子方先頭車が特別保全車で、塗り屋根になっていました。



205 (横須賀)



207 (千葉)



210 (千葉)



215 (五井)

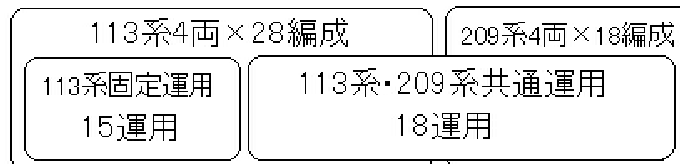
5、運用

千葉地区で運用されている 113 系ですが、209 系の進出により運用数を確実に減らしています。ここでは、4 両編成と 6 両編成に分けて運用の現状を考えていきます。

5 - 1、4 両編成の運用

運用において、絶対に 113 系が運用に入る運用を「固定運用」、他形式が入る可能性がある運用を「共通運用」と言います。現在の千葉地区では、「113 系 4 両編成固定運用」と「209 系、113 系 4 両編成共通運用」の 2 種類があります。現在、固定運用は 15 運用、共通運用は 18 運用あります。在籍する 113 系 4 両編成は 23 編成ですので、以下の図のようになります。

固定運用には必ず 113 系が入りますから、共通運用に用いられる候補の編成は 28 編成から 15 編成を引いた残り、すなわち 13 編成となります。ここで共通運用となる 209



系 4 両編成は 18 編成在籍し、同系は明確な固定運用を持っていないため、全 18 編成を共通運用に用いることが出来ます。よって、共通運用には 113 系 13 編成 + 209 系 18 編成の合計、31 編成のうちいずれかが入るのです。113 系は運転に癖があり、ベテラン運転手でも運転が難しいことで知られていますから、JR 側はなるべく 209 系を共通運用に入れ、113 系を運用から外するのが現状です。そもそも運用数である「18」は 209 系の編成数と一致しているため、共通運用は全てが 209 系で賄えてしまいます。したがって、共通運用は殆どが 209 系での運転と考えるのが妥当となります。これは、共通運用以外では殆ど 113 系を見ることができないという、113 系の衰退を感じさせる状態です。

5 - 2、6 両編成の運用

6 両編成は全てが 209 系との共通運用です。運用数は 6 であり、113 系が 6 編成、209 系が 12 編成在籍することだけを考慮すると運用入りを期待するのは絶望的に見えます。しかし、6 両運用の多くは共通運用の 4 両編成との併結なのです。よって、209 系と 113 系の異種混結は出来ませんので、113 系 4 両編成と肩を組む運用には必ず 113 系が入ります。...しかし、4 両編成の共通運用はどれに 113 系が入るかは分かりませんので、狙っても見ることは難しいでしょう。



5 - 3、かつての臨時運用

さて、シビアな話が続きましたので、ここではここ数年の臨時列車運用について少しだけですがご紹介しましょう。

「なつかしの 113 系列車のたび」 2009 年 10 月運転

東海道線全通 120 周年と横須賀線開業 120 周年を記念して、かつて 113 系が活躍していた両線で運転されました。経路は東京～国府津～茅ヶ崎～大船～横須賀～品川で、二日間運転されました。編成は 117 (湘南色) + 205 (スカ色) の 8 両編成でした。

快速「旅れっしゃ京葉」 2010 年 5 月運転

京葉線開業 20 周年を記念して、海浜幕張～千葉みなとで二日間運転されました。編成は S65 編成の 6 両編成で、ヘッドマーク等は掲出されませんでした。

快速「白い砂」 2010 年 7 月・8 月運転

かつて房総方面へ向かう快速列車として運転されていた「白い砂」が臨時列車で復活したもので、最近では「ニューなのはな」などのお座敷列車が使われていましたが今年は久々に 113 系での運転となりました。かつてのヘッドマークも掲出し、6 両編成で運転されました。



「なつかしの～」(北鎌倉)



「旅れっしゃ～」(海浜幕張)



快速「白い砂」(鎌取)

6、千葉地区 113 系の今後

京浜東北線で活躍していた 209 系の房総転属が進み、2011 年度末までに全て置き換えられる予定です。置き換えられた 113 系は既に登場から 30 年近い車両が多く、老朽化も否めないため全て廃車となってしまいます。廃車回送は既に進んでおり、北長野では解体も始まっています。右下の写真は、今の千葉の状況を最もよく表しているのではないのでしょうか。出発する 209 系普通電車とすれ違う横須賀線直通の快速電車、E217 系です。以前はどちらも 113 系であった風景は、過去のものとなりつつあるのが事実なのです。



千葉の 209 系 (蘇我)



(五井)

7、最後に

結果は予想できましたが、実際に運用等を調査している段階で虚しさが込み上げるものとなりました。地元・東海道線から 113 系がいなくなって 4 年半。千葉の 113 系も山場を迎えました。そして、千葉地区から 113 系が全廃となると、スカ色の 113 系は日本から消滅ということだけでなく、JR 東日本所有の 113 系全廃をも意味します。近郊型の汎用形式として揺るがぬ地位を確立し、国鉄の一次代を築いてきた名車であるスカ色 113 系も、いよいよ終焉を迎えようとしているのです。国鉄民営化から 23 年が過ぎ、現役の国鉄型も居場所が狭まってきています。最後に一度千葉地区を訪れて長い間活躍してきた 113 系を労ってあげてみてはいかがでしょうか。

8、【おまけ】全国に残る 113 系とその塗装

最後に、千葉以外で活躍している 113 系の姿を紹介します。

湖西線 京都～山科～大津京～近江舞子～近江今津～永原
JR 西日本の湖西線では、体質改善車（カフェオレ）、湘南色、西日本単色化（抹茶色）の3色が存在し、すべて4両編成で構成されています。一部列車は4両どうしの併結し8両編成で運転され、異なる塗装の編成が併結するのもしばしばです。



湖西線（山科）

阪和線・紀勢線 新大阪～天王寺～和歌山～紀伊田辺
JR 西日本の阪和線・紀勢線では、体質改善色・阪和快速色（ブルーライナー）がいずれも4両編成で活躍しています。阪和線内は朝の快速二往復だけであり、人気の列車です。



阪和線（三国ヶ丘～堺市）

草津線 京都～草津～貴生川～柘植
草津線では、湖西線と同じ編成が運用に用いられます。半数は貴生川折り返しで、東海道線直通運用も一部は 113 系での運転となります。併結運用はなく、全ての列車が4両編成での運転となっています。



草津線（草津）

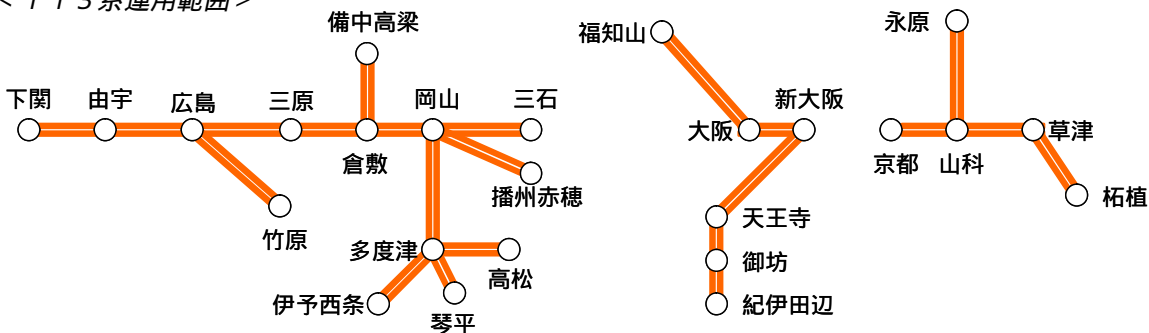
山陽・赤穂・伯備・呉線 岡山・広島周辺地区
山陽本線岡山・広島地区周辺では、京都車両センターから貸し出されている 113 系が運用されています。B1 編成以外は窓周りが金属押さえに改造されているため、一目で京都区の 113 系であることが分かります。



山陽本線（岡山）

なお、他にも少数ながら福知山線などでも運用されています。

< 113系運用範囲 >



図中、線で示した範囲が 113 系の運用範囲です。岡山～多度津・高松・伊予西条・琴平は JR 四国が、それ以外は JR 西日本が担当しています。西日本と四国でも、未永く活躍して欲しいですね！

参考文献

鉄道ファン 2010 年 1 月号、とれいん 2010 年 7 月号、Rail Magazine 2010 年 6 月号

レポート内で使用した写真は全て筆者撮影です。転載等をご遠慮ください。

編成数において、 の引いてある編成は、2010 年 9 月現在、廃車済の編成です。